

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2003/10/04 Vol. 12 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 15 年第 3 回定例会報告 (2)

いつもお世話になっております。印西市議会第 3 回定例会(9 月議会)は、9 月 24 日(水)にて、閉会しました。今回も、9 月定例議会での私からの一般質問、市執行部からの回答を中心に報告していきたいと思っております。

9/12 (金曜日) に、個人質問に立ちました。以下、市当局の回答です。

1. 印西市基本構想*と今後の市政運営について

(1) 基本施策の大綱には「互いに差え合い心が通う、まちづくり」が掲げられているが、印西市第 2 次実施計画には基本構想中に記載されている以下の 2 項目についての施策がないようである。以下の 2 項目については、今後、どのような施策を行っていくのか。
(* 今回の紙面では 1 項目のみご紹介させていただきます。)

() 活力ある長寿社会の創造について

(回答 / 市長) 議員ご指摘の印西市第 2 次実施計画に施策が記載されていないが、今後、どのような施策を行っていくのかということですが、基本計画の活力ある長寿社会の創造につきましては、実施計画の中では経常事業として「生きがいづくりと社会参加の促進」として位置付けられております。この施策の展開としましては、「生きがいづくり」「老人クラブ活動の充実」「就労の場の提供」の 3 つの施策を展開しております。

まず、「生きがいづくり」として、学び楽しむとした生きがいづくりの多様化したニーズに対応するため、高齢者の皆様に対し、健康の増進、教養の工場及びレクリエーションなどの事業を総合的に提供できる場として老人福祉センター等があり、日々多くの方々にご利用をいただいております。次に「老人クラブ活動の充実」として、高齢者が生きがいを高め、高齢者クラブの活動に多くの方々が参加し、自主的に活発な活動ができるように支援しております。次に、「就労の場の提供」として、高齢者の豊富な経験と知識を生かすことによって生きがいの向上と社会参加を図る事を目的とする「シルバー人材センター」の事業運営に対して支援をし、会員の増強、組織の強化・支援等に務めております。今後も高齢者が生涯にわたって生きがいをもち、豊かで活動的な生活ができるよう、高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進を図ってまいりたいと考えておりますので宜しく願いいたします。

(ぐんじとしのりより / 解説) 今回の市長回答の「活力ある長寿社会の創造について」ですが、内容的には理解できましたが、欠けている視点があると思っておりますので、皆様とこの紙面で考えていきたいと思っております。

私は人生 80 年に対応した総合的な施策の確立とその推進が必要だと考えています。印西市はどうなっているのだ。私は過去 4 年半の議会活動を通じ見てまいりましたが、今回の質問の内容「活力ある長寿社会の創造」という面では著しく先進市と比べ遅れをとっているように思えるので、今回の質問をしました。言い換えますと、高齢者というと、どうしても今までは老人保険であるとか、介護保険の問題といった福祉に重点が置かれた施策を自治体は考えていたのが事実で元気な高齢者への施策がおざなりになっていたような気がしています。実際、例えばわが印西市では老人福祉計画や介護保険事業計画といった計画はありますが、先進市で見られるような「高齢化社会対策指針」や「高齢化社会対策総合計画」といったものは見られません。たしかにこの老人福祉計画というものは、その内容を

詳細に読んで行くと、(高齢社会の将来像)として「いきいき あんしん 生涯現役のまち」というものが掲げられ、4つの基本目標があり、それぞれが説明されていますが、しかし一部の施策には利用実績はあるが目標数値がなかったり、平成19年にはどうなっているかわからないのが実情だと思います。これでいいのでしょうか？

平成15年9月。確かに現在印西市は、県内でも3番目に若い市です。しかし、10年後はどうなっているのでしょうか？ 印西市と同じようにニュータウンを抱える多摩市(多摩ニュータウン)や吹田市、高槻市(千里ニュータウン/大阪)の現状を知るべきだと思います。

行政はまちの将来を考える責任があります。

活力ある長寿社会の創造について。市では経常事業として「いきがいくりと社会参加の促進」を行っているといえます。この経常事業を否定することはないのですが、今後必ず来る高齢化社会と考えると「いつまでに、何を、どこで、どのくらいするか」をはっきりとした数値目標を決めた総合計画が必要なのではないかと考えます。

また、この紙面前号でご紹介したように、印西市に人を呼びこむため、魅力あるまちづくりをすすめてまいりたいと考えている旨の市長答弁をご紹介しましたが、私は若い世代として関心の高い「子育て支援の推進」「住環境の整備」「雇用の場の確保」などを中心とした施策のうちの「住環境の整備」「雇用の場の確保」については、これから人を呼びこむ施策よりも、現在の市民に対しての「活力ある長寿社会の創造」にこそ必要な施策であると考えが必要があるのではないかと訴えました。

あわせて、印西市基本構想に対する基本姿勢に書かれている文章(「平成12年4月から施行された地方分権一括法により、国や県からの権限委譲がすすみ、全国均一の自治体運営から、地域の事情を反映した責任ある施策の選択・実施とその積み重ねによる独自の自治体運営が求められる時代になってきている。」)を引き合いにし、印西市は「活力ある長寿社会の創造」にむけて、独自の自治体運営を考えるべきである。また、「高齢化社会対策指針」や「高齢化社会対策総合計画」なしになんとなく行政運営を行っていくことは避けるべきである旨を再質問、再々質問を通して訴え、今後の印西市における高齢化社会対策を行って欲しいことを伝えました。

北総公団線への印西市の取り組みについて

標題の件について、皆様よりご質問がございましたので、ここに記載させていただきます。(平成15年第3回臨時会 - 7月22日 - でのぐんじとしのりの質問趣旨と印西市の回答)

(質問)JR成田線複線化促進活動に要する経費の補正予算で市民号を実施するということでしたが、北総線については適切なる運賃体系の実現という目標があります。市としては北総線での市民号の実施も含め、支援をどのように考えているのですか？

(回答/総務部長)北総線の(運賃問題については)私共としても大きな問題として捉えております。そのなかで北総春まつりについては、従来より支援と言うことで、これは金額支援というか、一部私共でも経費をかけて、準備をして一緒にやらせていただく格好でやってまいりました。さらに本年度からは、ビールフェスタというものを7月31日に中央駅でやるので、支援を頼むよというお話がございましたので、こちらについても私共は協力をさせていただくということで協力体制をとってきたわけです。今後、さらに北総線の運賃値下げ、適正化と言い直してもよろしいと思うのですが、あるいは通学定期券の割引率アップと言う面ではいろいろな活動を通して北総開発鉄道とも協議を進めていきたい、そのように考えております。

いつもご声援、ご支援ありがとうございますこの紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と考えていきたいと思っております。よろしく願い申し上げます。ぐんじとしのり